

平成 27 年度 冬の学習会

1 月 30 日土曜日、奈良県立文化会館にて、近畿教育オーディオロジー冬の学習会が開催されました。寒さが残る中にも春の日差しを感じつつある奈良に 100 名の受講者が集まりました。

聴覚障害児の言語指導は、多くの先生方が日々実践しながら、課題を感じるころではないでしょうか。J. COSS の結果から日本語の習得へとつながる指導についてお話をくださった木島先生、ビデオで発音指導の様子や日々の子どものやりとりを詳しく教えてくださった木村先生に、数多くの感謝と感想が寄せられました。



講演 I

『きこえない子に読み書きの力をつけるために』

木島 照夫 先生

(東京都立大塚ろう学校)

※当初予定していた題目「手話を生かした日本語指導」から変更になりました。

参加者アンケートより

- ・大変興味深くお話を聞かせていただきました。ありがとうございました。特に小学部の子どもたちへの言語指導という観点でのお話は大変参考になりました。本文の読み取り（感情の理解や理由原因の読解）に目を奪われがちですが、その理解のために、一つ一つの言葉や動詞表現の意味理解が必要なのだと感じました。時間をかけても外してはいけないポイントなんだと改めて感じました。
- ・文法の指導はとても難しいと感じています。一行日記や普段の作文指導に取り組んでいます。今回具体的なお話を頂き、1つでも実践していきたいと思いました。社会自立のための「読み書き」の大切さを忘れず日々の指導に臨みたいと思います。
- ・動詞が日本語の中でも大きな意味を持つのに、動詞の語彙数が少なかったり、活用が未習得であったりすることを知り、これまであまり意識して子どもたちの動詞の語彙数や活用の力を把握できていなかったなあと反省しました。学ばせていただいた指導例を参考に日々の指導を見つめ直したいと思います。
- ・「手話は人生を楽しむために、日本語は人生を戦うためにある」という座右の銘がとても印象に残りました。



講演Ⅱ

『きこえと発音、ことば』

木村 淳子 先生

(筑波大学附属聴覚特別支援学校)



- ・自分の発音を自分で気づき、自分で考え、自分で説明できるということが大切なんだということが分かりました。生徒さんとの落ち着いたやりとり、自分はできていないことだと思いました。質問して答えが返ってくるまで待てない…と反省しました。
- ・ビデオで実際の指導場面を見せて頂いたので、子どもとの関わり方や、自分で気付かせるアプローチの仕方など学ぶところが沢山ありました。子どもとやりとりする中で子どもの思考や理解力についても把握して関わり方を柔軟に変え、授業後にもしっかり分析されているのがすごいなあと思いました。授業や指導の振り返りも大切にしていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・『答えを「知っている」ことよりも、答えが「わからない」気持ちを持ち続けることがより大切』という木村先生の言葉は、話を聞いていくうちに本当にそうだと思った。
- ・先生の子どものやりとりが非常に印象的でした。大切にされていることが、きちんと子どもに返っているように感じました。特に「違う」と言わないことや、「叱る」ということについては、発音指導だけでなく通常の授業の中でも意識したいなあと思いました。子どもたちも日々いろいろなこと（これまでに指導を受けたこと）を意識して成長しているので、私も成長したいと強く思いました。

夏の講演会・講習会はお盆の後に！！

【来年度の予定】

平成 28 年 8 月 18 日(木)・19 日(金) 第 18 回 夏の講演会・講習会 ※お盆の後になります

18 日(木)総会・講演会・全体講習会(ホテルアウィーナ大阪)

講師:齋藤 佐和先生(目白大学大学院リハビリテーション学研究科 教授)

山口 忍先生(大阪保健医療大学 教授)

19 日(金)講習会(大阪府立生野聴覚支援学校)

10 月 29 日(土) 秋の講演会 (大阪 味覚糖UHA館)

講師:平島 ユイ子先生(国際医療福祉大学 福岡保健医療学部 講師)

平成 29 年 1 月 28 日(土) 冬の学習会 (兵庫)

近畿教育オーディオロジー研究協議会事務局

〒655-0013

兵庫県神戸市垂水区福田1-3-1

兵庫県立神戸聴覚特別支援学校内

事務局長 柳瀬 尚子

TEL: 078-709-9301

FAX: 078-709-0371

メール: na_yanase@hyogo-c.ed.jp